



2005 ITU ASTC Asian Triathlon Championship Singapore



2005 ITU・ASTC アジア選手権シンガポール大会 7月2日(土)

蔵本は2連覇。日本ジュニア女子、5位まで独占。ジュニア男子は、3位に

ITUアジアトライアスロン選手権ジュニアの部は、7月2日(土)、シンガポール・イーストコーストパーク特設コースで、25.75km(スイム0.75km、バイク20km、ラン5km)の距離で行われた。

午前10時にスタートしたジュニア男子は、ヒュー・ミンホ(韓国)がスイムでトップに立ち、それを日本の古川哲也(チームゴーヤー)と比嘉和真(チームゴーヤー)が追う展開。バイクに入ると、ヒューと追いついてきたアシアン・アブドラフマノフ(カザフスタン)が二人で逃げるが、2周目の後半で後続の選手たちが追いつき、約10名の集団が形成された。そのままランに移ると、アブドラフマノフとラストリジン・パベル(ウズベキスタン)が集団から先行し、スパートしたアブドラフマノフが優勝した。2位には、パベルが入った。3位には日本選手男子の若杉摩耶文(日本体育大学)が、ランで先行する二人に食らいついて、表彰台に上った。「バイクが大きな集団になった。そのなかからランで前へ出たとき、数名を抜くことができた。しかし、前に行く二人にはもう一歩及ばなかった」とコメントした。

11時5分スタートの女子は、呼野詩織(東京都連合)がスイムをトップフィニッシュすると、伊藤弥生(ウイングスTC)、蔵本葵(東京ヴェルディ)が続いた。バイクでは、呼野と蔵本が二人で逃げ、後続は約7名の集団となった。そのなかで落車がおき、伊藤と菊池日出子(チームテイケイ)、和田陽加(東京ヴェルディ)が巻き込まれ、和田は惜しくも順位を落としてしまった。ランに入ると、先行する蔵本に菊池と伊藤の日本選手が迫ったが、蔵本が逃げ切ってアジアトライアスロン選手権2連覇を果たした。2位は菊池、3位は伊藤、4位は呼野、5位は大塚と、日本選手が上位を独占した。蔵本は、「昨年の初優勝に比べて、2連覇へのプレッシャーがあり、きつかった。それだけにうれしい」と語った。

同日開催の、一般の選手が出場するスプリントの部では、日本の三浦喜明(神奈川県連合)が優勝した。

明日は、アジア選手権エリートの部、アンダー23の部がスタートする。

なお、レースの様子はフォトギャラリーでご覧いただけます。

